

ライスシャワーの耳かき

蒼月柊

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

そこそこばかライブTV Vol. 3 でリスシヤワー役の方がASMRをやりたいと言っていたので、思わず書いてしまいました。

頼むサイゲ、いくらでも出すからウマ娘たちのトレーナーに向けたASMRを發表してくれ！ 頼む！

なお、台本は書いたことがあまりないので、ASMR台本風小説形式（ややこしい）となっています。

リスシヤワーのお声で脳内補完しつつ、お楽しみいただけると嬉しいですよ。それではどうぞ。

目次

ライスシャワーの耳かき

—
1

ライスシャワーの耳かき

リビングの明かりもつけずに、ライスシャワーはソファに座っていた。微笑みを見せる彼女は自分の腿をぼふぼふと叩く。

「耳かきをしたいな」

その言葉に従って、頭をライスシャワーの腿に置いた。

「それじゃ最初は右耳から」

耳かきの先が耳に触れる。耳の中をくすぐられる快感とライスシャワーの体温にまぶたが重たくなる。

「眠たくなったら眠っていいんだよ？」

吐息まじりの小さな笑い声がだんだん遠くになっていった。

*

「いつもお疲れさま。お仕事は大変だね。」

どうしてわかるのかって？ だって、夜に見る顔がいつも眠そうだもん。いつも頑張っているってわかるよ。

だからね、今日は少しでも疲れが取れるようにって思ったんだ。……本当はいつもや

らせてもらえる嬉しういだけ、だめ、かな。

なんて、聞こえていないよね。……やっぱりライスは悪い子だ。でも、いつかちゃんと言えるようになれたらいいな。

耳かきはどうかかな。眠っていることは気持ちいいんだよね。それとも、それだけ疲れていたってことかな。

そんなに頑張らなくていいんだよ。ライスも一緒に頑張るから、その想いは自分のために使ってほしいな。……それだけ想われていることはとても嬉しいけれど、もつとライスを見てほしいな。もつと、ライスと一緒にいてほしいな。

……ちよつと恥ずかしくなつてきちゃつた。大丈夫かな？ 気づかれていないかな？

*

「ふー、よし、右耳はきれいになつたね。それじゃ次は左耳にと、えへやっぱりかわいいなあ。この表情かおだけはライスだけのものだから。これからもずつと。

……体を動かしても起きられないほどに疲れていたんだね。いつもありがとう。でも、やっぱり心配だよ。いつか離れてしまふんじやないかって、怖くなる。あなたはきつと離れないって言つてくれるだろうけど、あなたが死んでしまつたら離れてしまふんだよ？

だから、頑張りすぎないでほしいな。頑張るときは一緒に、ね。

レースに出ているときもそうだったんだから、これからも一緒にいてほしいよ。そのためだつたらなんだつてする。この幸せが続くためなら、頑張るよ。

……えへへ、あなたと一緒にだね。ライスもあなたのためなら頑張っちゃいそう。だからやつぱり一緒にいいな。これからもずっと」

*

意識が戻ってきてても、体を動かすことはできなかつた。首を動かすと狭いソファにライスシャワーが体を抱きしめて横になっているのが見える。

どうにか腕をライスシャワーから抜いて、ライスシャワーの頭を撫でた。所々から跳ねてしまう髪質とは思えないほどに触り心地がよい髪を触りながら、外が明るくなる様子を見つと眺めていた。